



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
FAX (052) 461-4320
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

旬々に込められた思召は

理の継承の節目を振り返る

本愛では初代から現在まで、会長の理が受け継がれる時旬に応じて、さまざまなふしを頂戴してきました。来年6月に執り行われる「六代会長就任奉告祭」に向けた動きが徐々に具体化されるなか、旬々に込められた親神様の思召を振り返るとともに、来年へ向けた歩みを確かなものとしていきたい。

二・二六事件が勃発した昭和11年。かねてから東本大教会での教務が多忙を極めていた安藤正吉初代会長は、当時32歳の治正へ会長職を譲ることを望み、10月のお運びでお許しを頂いた。

21年間務めた会長の職を譲ることについて、初代会長自身の言葉はほとんど

活動目標

喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道

年。創立50周年の旬を迎えた本愛は、満60歳となった二代会長が脳出血で倒れるという大きなふしをお見せいただく。

身上平癒を祈る一同の誠真実によつて一命を取り留めたものの、二代会長は同年10月「右半身がまだすつきりしない」「大教会長の職を後任に譲りたい」と語った。直後から準備が進められ翌11月26日にお運び。息つく間もなく12月23日には慶三代会長の就任奉告祭が勤められた。

その後昭和52年の欣子四代会長、平成5年の正治五代会長の就任が、それぞれ前会長の出直、身上に端を発することは、まだ多くの人の記憶に新しい。

この旬に、掲げられた活動目標をもう一度心に刻み直すとともに、形と心の両面で成人した姿を親神様にご覧いただけるよう、誓いを新たにしたい。

前会長と新会長が共に健康で就任奉告祭を迎えるのは、本愛の歴史では実に85年ぶりのこととなる。

五代会長就任奉告祭で中山善衛三代真柱様は「理とこの初めから今日まで、これから先何人替わろうとも変わるものではない」「末代かけて少しでも成人の道を辿らせてもらうことのできるように、それぞれの立場において励んで頂きたい。勤めに励んで頂きたい」と述べられた。

大教会では先ごろ、今年11月を別席団参の強調月間とする旨が発表された。また、「六代会長就任奉告祭準備委員会」が設置され、2月には神殿外壁の補修工事が始まっている。

この旬に、掲げられた活動目標をもう一度心に刻み直すとともに、形と心の両面で成人した姿を親神様にご覧いただけるよう、誓いを新たにしたい。

3月のこよみ

入社祭・春季霊祭

1日 午前10時

祭典終了後、教会長連絡会
よふき会例会

2日 午前10時

月次祭

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前9時30分

少年会本愛団第51回総会

15日 午前10時

青年会例会

15日 午前10時

こはる会例会

15日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

婦人会例会

20日 午前10時

女子青年例会

22日 午前10時

雅楽勉強会

24日 午前10時

修養科志願者面接

25日 午後1時

本部月次祭
(於 本愛詰所)

26日 午前9時

春の学生おちばがえり

27日〜28日

立教183年 春季大祭神殿講話 要旨


 本部長・
 河原町大教会長
 深谷善太郎先生

説くことで、初めて相手に伝わるのだと思います。

熱意を持って句を伝える

教会は、ぢばの声、句の声を流す場所です。おさしづに、「本部という理あつて他に教会の理同じ息一つのもの」(明治39年12月13日)とあります。「この一つの心治めにや天が働き出

来ん」と続きますが、「ぢばと教会は息一つ」ということが大事なんです。教祖の年祭をはじめ、句々のぢばの声を流すということですが、教会の句としては、創立記念祭や普請、会長就任奉告祭、おぢばへの団参

などがあります。本愛大教会では来年に会長就任奉告祭を控えているわけです。これも大きな句です。

身上・事情というものは、神様がお与えくださいますから、上手に通るか下手に通るかはともかくとして、

絶対に避けられないものです。しかし、句というのは予定は立つけれども通るかどうかは自分次第です。身上・事情は、いつ頂くかは分かりませんが、句は予定が立つ。予定は立つけれども、通るかどうかは分からない。そこに大きな違いがあります。通るとは限らないから、それだけに句とい

うものは、伝える人の働きが肝心だと思うんです。伝える人に熱意がなければ、絶対に伝わりません。

またその中で、普請や就任奉告祭などはふしと句が合図立て合うということが多いんです。普通、ふしと句というものは別々のものですが、親神様が「何としても、この句を通して成人してほしい」という思召からふしを見せられる。罰などという悪いものではない

かもしれませんが、どうでもという親神様の期待がかかっているという悪いものではない

と、通るということ。句といふものは、自分で決心して積極的に通るといふことが大事で、ボーっとしてればいつの間にか過ぎてしま

います。そんなことがないよう、皆さんにはこの句にしっかりと心を定めていただきたいと思えます。

さらに魅力ある教会に

山岳ガイドは山の魅力を語り、共に険しい道を登ります。そして、いざ危険なときには頼りになるもので

す。私たち陽気ぐらしへのガイドも、危険なとき、ふしのときには頼りにならないといけません。それには知識と経験が欠かせません。単に教理を知っているだけではなく、教えを実践し、おたすけの経験を重ねるといふ努力も必要になってきます。

また、そこで語るお話の内容が通り一遍で魅力がな

最近では名所旧跡に行きますと、各地にボランティアのガイドさんたちがいて、有益な情報を提供してくれます。私は、お道を信仰する者を、陽気ぐらしという頂への山岳ガイドに例えることができますと思います。教祖がお示しくくださった「ひながたの道」という登山道を通り、原典、教典、教祖伝などから「ここにこんな滝がある」、「ここからの眺めが素晴らしい」など山全体の姿、概要を学びながら、陽気ぐらしという頂を目指し、周囲の人々を導いていくのです。

評判が良い山岳ガイド

は、初めて登山をする人たちに、まず登山の楽しさとの山の魅力を語ります。これからの登山が楽しみになるように話をするのです。私たち陽気ぐらしへのガイドも、お道の魅力とその素晴らしさを語ることが大切です。単に「陽気ぐらし」を「陽気な暮らし」と置き換えるような説明をしていても、お道の魅力はなかなか伝わりませんし、世界の動きや身の回りの出来事とお道の教えが平行線のままで

来ません。そこには伝える者の努力、工夫が必要です。実生活に結び付けて信仰を

く、心に響かないということではいけません。「間違っていないけれども、面白くない」という話がよくあるんです。原典、教典、教祖伝をずっと引用して終わるというのは、間違っていないけれども、心には響かない。なぜなら、それは受け売りだからです。情性に流れ、いつもの人にいつものように、となるのは、年限を重ねた教会ほど気を付けた点です。

魅力ある教会に、ということを最近、よく言っています。やはり、初めて訪れた人たちがながつてくれるには、お道の魅力、お道の素晴らしさ、ありがたさを伝えなければいけない。魅力を感じるからこそつながってくださるのです。

報恩感謝の気持ちで

我々、お道の人間の原動力は親神様の御守護とそれ

をありがたいと感じる心、そしてそれにお応えしたいという報恩感謝の心から生まれるものです。代を重ね、歴史が古くてもこのご恩報じの心がないと、教会の伝統は失われます。100年続く企業は、たった3%です。そういう企業は、創業者の精神を忘れなかつたところだと言われます。私たちと同じで、初代の精神をしつかりと受け継ぎ、教会の伝統を守り続けることが大切です。

お道の草創期をみると、教祖にたすけられた人々がお道を信仰したのではありません。お道を信仰したのは、教祖に恩を感じた人々なんです。立教から20年以上経って、初めて4合の米を持ってお礼に訪れた人がいる。ここからお道の信仰は始まっていくのです。

やはり、何事も報恩感謝の気持ちで実行させていた

だくことが大切で、恩を感じたら自然と返したくなるものです。恩師にプレゼントしたいというときには、誰でも物を選ぶときから嬉しいんです。どんなに喜んでもらえるかということを考える、自分が出費をするのに嬉しい。これが恩返し的心だと思います。

たすかる公式

皆さん、今日まで生きてきて一番幸せだった日はいつでしょうか。私はかつて娘に聞かれたとき、空いた時間に妻と子供たちで近所の鴨川へ行き、いいお天気の中、妻が作ったお弁当を家族で食べたときだと答えました。毎日の生活の中で、身近なところを感じる幸せが、一番の幸せだと思います。驚くようなことや特別なときではなく、何でもない身近なところにある、毎日の生活の中の幸せこそ一

番なんです。そうして幸せを感じ、ご恩を感じる。ご恩を感じるからこそ、さらに深く幸せを実感できるんです。そうした中でこそ、ご恩報じの道を歩むことができるのだと思います。親神様の御守護のおかげを感じ、幸せを実感してご恩報じの道を歩む。そうするとさらなる御守護が頂ける。これこそ人がたすかる公式です。

本愛大教会では、来年6月に就任奉告祭が執り行われます。教会は末代の理にお許しいただきましたが、人間には寿命があります。同じ会長がずっとやり続けるということは不可能なので、教会の顔は時代と共に変わっていきます。変わってはいけないのは、ご恩報じの心だと思います。この教会につながる皆さんには、新しい大教会長にも絶大な心寄せをお願いしたい。

ラグビー日本代表には、「LOVE TEAM (ワンチーム)」というスローガンがあります。海外の出身者も多く、さまざまな言語や文化の選手がいる中で、チーム一丸となつてワールドカップで大躍進しました。教会という所もさまざまな人が寄り集う場で、まったく個性の違う人々が集まります。そして一方で、よく似たいねんの人が集まる所でもあります。性格が似ているのではなく、いんねんが似ているのです。それが神様が引き寄せた顔ぶれなのです。

本愛につながる皆さんもワンチームで、一丸となつて新しい大教会長を盛り立て、そして、本愛大教会の伝統を受け継ぎ、守り続けていっていただきたいと思っています。

(文責 広報部)

教理随想

言わん言えんの理を探る



今年は風邪やインフルエンザの流行に加えて、新型コロナウイルスの感染が確認され、いまだに終息の気配を見せていません。一人一人がうがいと手洗いでしっかりと予防しながら、一日も早い感染の治まりを祈りたいと思います。

ところで風邪をひいて熱が出る、多くの人は熱を下げようと毛布やふとんをかぶって発汗を促進したり、解熱剤を飲んだりするでしょう。もちろん乳幼児の場合や、四十度近い高熱が

続くケースにはそれらも必要ですが、専門の医師によれば、大人で少々の発熱ならば、あまり無理に熱を下げようとせず、静かに体を休めるのほうがいいことです。

なぜなら、体内に細菌やウイルスなどの異物が侵入すると、リンパ球や白血球の一種であるマクロファージという物質などが、侵入した異物を食べて体の組織を外敵から守る働きを開始

します。この時に脳から送られるのが体温上昇という信号です。体温が上がると、異物は体内に住みにくくなり、逆にリンパ球などによる防衛活動は働きが活発になります。そして異物を撃退し終わると、再び脳から指令が出て、元の体温に戻

るといふ機能が人間には備えられているのです。

ですから熱が出るという状態は、寒気やだるさなど多少の不快感を伴うことはありますが、実は体を外敵から守る上で重要な働きで、この調節機能が「人間身の内のぬくみ、世界では火の守護の理」と教えられる、をもちりのみことの守護であります。

また地球上の生物が太陽の熱によつて守られ生かされているという事実。これも火のご守護で、親神様は火と熱、温みの特質を根源として女性を創造されました。母親の温みと愛情を受けて子供はすくすくと育ちます。母親が冷たい心や言葉を使いつつも使っていれば、

せつかく天から与えられた「生み育て」の徳分を活かしていないことになり、育てられる子供の心に愛情が枯れ果ててしまう。青少年が引き起こす問題の原因の一つは、母親の愛情不足にあるという、専門家の指摘もあります。

■男性も心を揃えよう

もう一つ、親神様が女性に期待をかけておられるのが「つなぎ」の役割です。人や物に対する感謝をもつて心をつなげば人生が思う方向につながり、また人間思案を忘れて、神一条とたすけ一条に心をつなげば、運命の糸がつながる。これが天の理であります。

目の前にいくらいい仕事や人が存在していても、自分との縁、すなわち「つながり」がなければ喜びを味わうことはできないし、いくら大金が転がっていても縁がなければ一円たりとも

使うことは許されない。そう考えると、くにさづちのみことの守護である「つながり」ほど人生で大切なものはありません。

女性の本質である「ぬくみ」と、女性の役割と教えられる「つなぎ」。親神様がこの二つの徳分を十分に授けて、私たちに本当の幸せを味わわせてやりたいと思召されているのが、天理教婦人会創立百十周年の旬であります。

四月十九日には、それを記念して親里で百二回目の婦人会総会が開催されます。この旬に老いも若きも、また婦人会員のみならず男性も心をつなげ、それぞれの役割と徳分を活かして、婦人会総会の日には一人の帰参者をおぢばへお連れできよう、おたすけの日々を歩みましょう。その先に温もりとつながりの働きがあふれる楽しみの道が拓けていくのであります。

【第63回】

温もりとつながりの種となる 婦人会創立110周年への尽力は

次代を担う若者を育成しよう

本愛団第51回総会近づくと

少年会本愛団では3月15日(日)に、「本愛団第51回総会」を開催する。

当日は、午前10時よりおつとめ衣を身につけた少年会員らによって祭儀式が行われ、引き続きおつとめ



昨年の総会の様子

十二下りてをどりまなびが勤められる。

午後からは総会式典が行われ、少年会長様からご告辞(代読)を頂戴することとなっている。また式典の中で、今春少年会員を卒業する中学3年生が対象の成人門出式が執り行われる。その後は境内地にて、恒例のアトラクションや各隊・各会からの模擬店、華洲館ではゲームコーナーが催される予定。

道の学生結集の時 「春の学生おちばがえり」

「立教183年春の学生おちばがえり」が3月28日に親里で開催される。

本愛学生会では今年も3月27日・28日の日程でバス団参を計画。学生たちは行

事を通じて信仰や友情を深める貴重な時間を共に過ごす。

大教会集合は27日午前9時、解散は28日午後7時頃の前定。申し込みは参加御供5千円を添えて大教会神殿事務所まで。締め切りは3月20日となっている。

婦人会

創立110周年へ奮起新たに 本愛支部が委員部長講習会を開催

婦人会本愛支部では2月20日に委員部長講習会を大教会で開催した。

午前10時、神殿でおつとめを勤めた後、華洲館3階へ移動。初めに代表が逸話編を拝読し、続いて安藤くみ子・本愛支部長が講話を行った。

安藤支部長は「創立110周年に向かうこの旬に、をやるの思いに心を添わせていただくことが大切」と、時句



真剣な面持ちで支部長の講話を拝聴する婦人会員ら

の御用に一人ひとりが心に向けて歩ませていただくことを促された。また「こちらが真剣に願わせていただいたならば、神様はちゃんと受け取ってください。それを私たちは心において、今年も通らせていただきたい」と、日々頂いている親神様のご守護をしっかりと感じ、御礼をさせていたただく心を、常々持たせていた

昼食をはさみ、午後からは12班に分かれてねりあいが行われた。間近に迫った「天理教婦人会創立110周年記念第102回総会」へ向けての日々の通り方や理づくりの仕方、またそれぞれの心づもりを話し合うなど、どの班も活発に意見が飛び交った。

参加した各委員部長は、創立110周年記念総会に一人でも多くの方をお誘いし、おちばへ帰参することを誓い合った。

ハーフタイム

友人が甥と姪を公園で遊ばせるのに付き合ったことがある。女の子を遊具に乗せていると男の子がそれを

突然揺さぶった▼幸い少し驚いただけで済んだが、友人は血相を変えて甥を叱りつけ、男の子は泣き出してしまった▼それからしばらく時間が経ち、その友人ともすっかり疎遠になったが、時折火がついたように泣く男の子の姿を思い出す。あれは悪戯ではなく、妹を喜ばせようとしたのではないか。彼が泣いたのは、叱られた辛さではなく、思いが伝わらなかった悔しさからかもしれない▼叱った方も叱られた方も、とうに忘れただろう昔の話。この解釈は間違っているかもしれないが、良い方に受け取るよう努めたい。そう自戒しながら実践できず、また彼の泣き顔を思い出すのだ。

1月のおさづけの理拝戴者

本築 高木 利寛
以上1名

1月の中席者数

(2月20日提出分まで)

本心 4 本道橋 2
以上6名

1月の初席者

本一心 大倉 未歩
以上1名

お詫びと訂正

2月号3頁掲載の春季大祭祭典役割、同6頁掲載の立教182年教務統計において、誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

春季大祭祭典役割

座りつとめ 三味線
(誤) 出口敬子↓(正) 吉田佳子

前半 てをどり
(誤) 山神理恵↓(正) 山神理恵子

前半 三味線
(誤) 吉田佳子↓(正) 若杉三美代

祭事部

立教182年教務統計

修養科修了者
(誤) 本知1 ↓(正) 本知2
(誤) 本徳1 ↓(正) 本徳0

教務部

おちばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう！

第948期 修養科生大募集

《集合・面接》 ☆日時…3月25日 午後1時 ☆場所…本愛詰所

※3月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

古川孝一氏(本孝徳部属・本知穂分教会二代会長) 2月18日に出直された。享年84歳。告別式は2月20日午前9時より、上野孝吉・本孝徳分教会長を齋主として本孝徳分教会にて執り行われた。

大教会日誌

令和2年1月25日～令和2年2月24日

1月

26日 本部春季大祭

◇祭典講話—出口道男

春季大祭総合団参(近鉄臨時列車)

◇大教会長挨拶

28日 婦人会創立記念の日

14日 布教実修所

31日 常任役員会議◇役員会議

おつとめ、布教実動、教理講座、振り返り

2月

1日 入社祭

16日 むつみ会例会

祭主・大教会長 扨者・吉田正信、吉田克義

青年会・女子青年合同例会

指図方・出口道男 賛者・坂倉敏男、松原 悟

おつとめ、レクリエーション

◇おたすけ講話—杉村善男

本愛こども会

◇教会長連絡会

おつとめ、おつとめ練習、DVD鑑賞

2日 よぶき会例会

17日 こども食堂MOGU(参加者51人)

おつとめ・十二下りてをどり、連絡会

20日 婦人会 委員部長講習会

12日 常任役員会議

おつとめ、支部長講話、ねりあい

13日 月次祭

22日 こはる会例会

祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、中島功雄

おつとめ、着付け練習

指図方・板山公司 賛者・塚原光男、中島裕信

24日 おはなし会